

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年10月6日(木)

《求めなさい ～どのくらい強く求めましたか～》

今日の福音(ルカ 11:5 - 13)では、二つのことを分かち合いたいと思います。

一つは、真夜中に友だちのところへ行き、パンを貸してほしい、と頼む話です。

イエス様は、友だという理由では、起きて来て助けてはくれないだろう、とおっしゃっています。しかし、友と言えるくらいの人ならば、いくら面倒に思っても、その人の望むことに応えてあげるのが当然でしょう。子どもが寝ているし、真夜中だから起きない、と言うような人ならば、友にならないほうがよいかもしれません。本当の友と呼ばれるには、相手が求めればそのくらい応えてあげる必要があると思います。“助けてほしい”と言っているのに、手を伸ばして助けてくれないのならば、友とは言えないでしょう。これは私の個人的な考えです。しかし、もし友という関係になったら、出来るだけその人のために、手を伸ばしてあげることがイエス様のみ心に適う行いだと思います。今日のたとえ話によって、それを勘違いしないようにお願いします。

二つ目です。ある心理学者が、「人間は五つの段階の欲求を持っている。」と言っています。最初の段階の欲求は、「食べるもの、着るものについて。そして住まいに関することについて。」です。それは、生理的な欲求です。しかし、だんだん段階が上がって行くと、精神的な欲求に変わって行くのだそうです。食べるものにも寝るところにも心配がなくなり、着るものにも困らなければ、人間は本能的に精神的な満足を求めるようになります。そして最後には、自我実現を求めるようになるのだそうです。

私たちの信仰にも同じようにいくつかの段階があります。初めの段階では、祈る時に幸福を求めます。たとえば、「健康を与えてください。」とか「経済的な問題から救ってください。」、「苦しんでいる人がいるので助けてください。」というような祈りがほとんどです。しかし、成熟していくと祈りの中身が変わります。永遠性に近づく祈りを捧げるようになって行きます。たとえば、「生きるとはどういう意味なのですか。」、「この世の中の苦痛にはどのような意味があるのでしょうか。」、「まことの愛とはどういうものなのですか。」、「変わらないものを求めるためには、どのような態度を持つべきですか。」、「永遠の命とは何でしょうか。」、「この虚しさはどのように克服すればよいのでしょうか。」というように祈りがだんだん変わって行きます。

霊性学者はこのように段階を作り、「初めは幸福を求めるような祈りばかりだけれど、最後には永遠性に近づく、霊的な祈りに変わる。そして、私たちの信仰も幸福を求める早期段階の信仰から、最後には、霊的な信仰にまで行くべきである。そのためには、今、自分がどのあたりにいるのか、いつも振り返って見る必要がある。」と話しています。

しかし私は、霊的な祈りよりもっと必要なのは『求めること』だと思います。

今日イエス様は、「求めなさい。」「探しなさい。」「門をたたきなさい。」とおっしゃいました。「そうすれば必ず返事が来る。必ず知らん振りはない。」とおっしゃっています。

皆様は求めたことがどのくらいありますか。あるいは、どのくらい強く求めましたか。たたいたとしたら、どのくらい強くたたきましたか。探したのならばどのくらい熱心に探しましたか。何かをするための最初の出発点は、このように何かをしたい気持、欲求です。これが何よりも必要なのかもしれない。

私たちはよく、「ぬるい」という表現を使います。ぬるくなる原因は何でしょうか。それは、望むものがはっきり見えないからです。もし望むことがはっきりすれば、あせります。このまま死んでしまえば終わりになってしまふ。どうすればよいか。いろいろ緊張感を感じます。しかし、「どうしてもいいけれど、義務でなければならぬから。」くらいの気持ちでは、永遠の命は得られません。それを今日の福音をとおして感じました。

信仰も生き方も、全て積極性が要求されています。もしその積極的なところが足りなければ、改めてもう一度頑張りましょう。そして、いつか神様のもとに帰る時には、足りなかったけれど私は頑張りました、と言えるくらいの準備ができていればよいのではないかと思います。

ありがとうございました。